

日本を明るく、 タフな国に

柏倉ゆうじ

衆議院議員の柏倉ゆうじです。
2012年の総選挙で当選して以来、日本のため、地元栃木のために日々、全力で活動を続けています。自らの医師、研究者としての経験を踏まえて「弱者の声を国政に反映すること」「教育環境整備と科学技術進歩を推進すること」にまい進しております。

「日本を明るく、タフな国にする」

これが私の政治信念です。若者がいきいきと働き、お年寄りや子供が安心して暮らすことのできるあたりまえの国をつくりまします。同時に、日本人としての信念と外交的したたかさを兼ね備えた国の「土台」をつくりまします。



PROFILE

- 昭和44年 4月10日生 栃木県出身 (45歳)
- 昭和63年 県立宇都宮高等学校卒業
- 平成8年 岡山大学医学部卒業
- 平成16年 順天堂大学大学院修了「医学博士」
米国ジョーンズホプキンス大学博士研究員
- 平成21年 岡山大学医学部特任准教授 (標的医療センター)
慶應義塾大学大学院特別研究准教授 (メディアデザイン研究科)
- 平成24年 衆議院議員選挙 初当選
厚生労働委員会 委員
科学技術イノベーション特別委員会 委員
- 平成25年 文部科学委員会 理事
- 平成26年 消費者特別委員会 理事



《4月15日本会議にて、教育行政法改正案について質問》
平成26年度通常国会 (第186国会) では、1年生議員としては異例の合計35回 (本会議2回、予算委員会3回、文科委員会22回、消費者特別委員会6回、経産委員会1回、科技特委員会1回) の質疑をし、下野新聞にも毎週2回以上掲載していただきました。

“医師”だからこそ、 柏倉ゆうじが守る3つの命。

1つ 高齢者の命

高齢者の方は90日で老健施設を出されてしまいます。これでは高齢者の方やその家族の方が大変です。90日ではなく、180日や1年といった長い期間、入院・入所ができる様な制度改革が急務です。さらには転院先を自動で検索できる行政サービスも必要です。柏倉ゆうじは患者さんの声を直接政策に反映させていきます。

2つ 子供の命

セシウムの低線量被ばくの危機はまだ終わっておりません。むしろこれからさらに注意を要する問題です。セシウムは腎臓、脳、心臓に蓄積して子供の成長を害するかもしれません。それを防ぐためには子供の低線量被ばく健診システムと、子供がどこに行っても見守れる全国規模のITネットワークが必要です。また、難病や小児ガンで苦しんでいる子供や親を支える行政サービスの充実も急務です。柏倉ゆうじは子供の未来を見据えて提言を続けていきます。

3つ 医療従事者の命

地方の医師不足、看護師不足、介護士の離職問題は深刻です。看護師さんは大病院へ吸収されてしまい、地方の看護師さんは連日の過重勤務でてんでこ舞い。介護士さんは3年で2/3が離職してしまうほど、精神的にも肉体的にも、そして給与面でも厳しい環境で働いております。柏倉ゆうじは医療人としてこうした問題に超党派で取り組んで参ります。

